

第18期
「京都教師塾」

令和6年1月20日

塾生通信

学びの広場

January

京都教師塾通信

No.7

京都市教育委員会 教員養成支援室

生きる力を育む道德教育 ～自らを律する力を育む授業づくり～ 講師 木下 要子 指導主事

塾生レポートから

今回の講義を受講する前は、道德教育に養護教諭がどのように貢献できるのだろうと疑問に思っていた。しかし、人間としてよりよく生きようとする人格的特性である「道德性」は、学校教育活動全体を通して育めることを学んだ。以下には、本講義で特に印象に残った点と、養護教諭として生徒の道德性をどのように育むかについて述べていく。

最も印象に残った点は、道德の授業を行うときは、低い道德性から高い道德性へ山場を見極めることである。山場を見極めるには、教科書や学習指導要領解説から中心を見つけること、その山場が各々の内容項目を達成することへ導けるかがポイントになると理解している。また、道德科の授業では、自分の考えを表現する場面が多く、自分の内面を表すことに躊躇する生徒もいる。だからこそ、主人公の思いを考えることで、道德性を高めることが出来ると学んだ。一方で、教師の目線に立つと、上手く自分を表せない生徒の内面を知ることができ、生徒理解に繋がるのではないかと考えている。講師の木下先生から、京都市では養護教諭が道德教育をしていることもあると教えて頂いた。養護教諭は、日頃の保健室に来室する生徒の様子から、学校全体の課題や個々の課題を把握するよう努めている。だから、集団に授業をしても、全体に対して道德性を高めることはもとより、個別に働きかけることも可能ではないかと考える。

また、養護教諭は保健室でも道德性を高めることはできると考える。私は、養護教諭として「寄り添う」ことを重要視している。ただ、今回の講義から寄り添いつつ、生徒が自分の意見を安心して述べられる信頼関係を築いた上で、弱さも含めたありのままの自分を見つめ、広い視野を持つことで人間としての生き方について考えを深められるところまで育てていきたいと考えるようになった。そうすれば、自立した人間として、他者とともによりよく生きることができると学んだからである。これは、生徒が生涯に渡って幸せに暮らしていくことにも繋がると思う。

生徒が高い道德性を持てるようになるためには、心の発達段階である学齢期に対する教師の働きかけは非常に重要であると考えられる。教職員の一員として、生徒たちが高い道德性で、よりよく生きることができるよう、覚悟をもって努めていく。

講義から道德教育についての基本的な考え方や模擬授業を通して教師目線と生徒目線から考えることができましたね。養護教諭の立場で「道德教育にどのように関わっていくのか」という事についてしっかりとした意識を持って考えられていますね。道德教育は、学校教育全体を通して行い、意識して取り組んでいくことが大切であるという事に学びがあったようですね。授業に関しては、山場の見極めや主人公の立場や思いを考え自分事とさせることから道德性を高めることにも目が向けられています。学びをもとに、養護教諭として取り組んでいくことを考え、今後にかかしていただきたいと思います。

～レポート担当スタッフからのコメント～



小学校における教科学習(道徳) ～自ら学ぶ力を育む授業づくり～ 講師 岸本 知可 指導主事



塾生レポートから

今回の講義では、模擬授業を中心に「道徳」について学んだ。今回の講義を通して、一番学んだことは「共通解」ではなく「納得解」を作ることである。クラス全体で生まれる共通理解で終わらせるのではなく、その共通理解を自分事に置き換えて自分なりの解釈を持たせるように授業を行うことで児童の道徳的な成長に繋がるのだと分かった。私は、教育実習で道徳の授業を経験させて頂き、講義を聞きながら自分の授業を思い返してみると、全員が納得解まで作ることはできていなかったように思う。共通解を作るためにもっとクラス全体を理解し、クラスの実態により合った中心発問や基礎発問を考えることができれば、児童の本音を引き出すことができたかもしれない。

分散会では、中心発問の設定について多く時間を使って話し合った。「自我関与」をどのように取り入れていくかが難しく、なかなか納得のいく中心発問を考えることができなかった。考えていく中で私たちのグループでは、児童が中心発問に対してどう考え、自分自身に繋げていくか予想することを大切に話し合った。学ぶのはクラスの児童なので、その児童に合わせた授業を行うことが全員大切と考えていたので、児童の反応をよく考えた上で結論を出していった。話し合いを通して、自分の中で新しい考えも生まれ、事前課題で考えていたものとは異なる中心発問を考えることができ、新しい視点で中心発問を考えることができたように思う。

教育実習でいくつかの教科の授業を経験させて頂いたが、その中でも道徳が一番難しかった。内容項目と授業のゴールの一致、中心発問の設定等、他の教科より授業構成を考えることに時間がかかった。

今回、講義・分散会を通して、これまで以上に道徳の授業のイメージが湧いた。大学の授業で道徳の授業づくりについて学んだことはあったが、今回はより実践的に学ぶことができた。今回の授業づくりのポイント等は他の教科の授業を考える際にも応用することができると思うので、「めあて」と「中心発問」に繋がりのある授業を心掛けて、構成を考えていく癖をつけていきたい。

教育実習での経験を思い起こし、具体的に考えることができました。どの子も納得解にたどり着くには、まず共通解に向けてどれほど深く話し合えるかですね。分散会の話し合いでも出ていたように、担任になった時は、目の前の子も達に沿っためあてを決め、どの子も考え抜くことのできる発問を練り上げてください。クラスの実態や現状、個々の子どもの様子を日々見つめていることで、納得解そして自分事となる道筋に寄り添うことができるのではないかと思います。一人一人が自分の生き方を見つめることを積み上げていけるような、そんな道徳の授業をしたいですね。

～レポート担当スタッフからのコメント～

1/6 中学校



分散会の様子



1/12 中学校(補講)



1/6 小学校



1/12 小学校(補講)



